

# 見守る

地域の状況を把握することは、民生・児童委員の活動の土台です。どこにどのような世帯があるか、支援を必要とする人はいないか、情報を集めて静かに見守ります。

特に高齢者や障がいのある人、子どものいる世帯などが中心です。近所でのあいさつや散歩途中の交流、買い物先での声掛けなど、普段の生活を通してさりげなく地域に気を配ります。



**別居の義母を見守ってもらっています**  
市外から週に数回は義母の顔を見に来ています。84歳で一人暮らしの義母が心配ですが、近所の民生・児童委員さんが見守ってくれていると思うと安心できます。  
幸子さん(仮名・左)と子の妻・桜さん(同・右)



①訪問による見守り・相談・安否確認



②子どもたちの登下校見守り



民生・児童委員を通じて独り暮らしの高齢者などに配布している「安心ほっとライン」。持病やかかりつけ医、緊急連絡先などを記入して保管し、もしものとき、救急隊員などが迅速に対応するために役立てます。



④歳末見守り活動



③一斉見守り運動の計画を練る委員たち

①一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯などを定期的に訪問。見守り、相談、安否確認などを行なう  
②子どもたちの安全を守り、顔見知りになる活動の一つ ③通学路の安全対策にも気を配る。委員の声をきっかけに通学路のカラー舗装が施された道もある ④年末に80歳以上の一人暮らし高齢者を訪問。小学校や子ども会と協力し、児童からの手紙などを渡す地区もある

# 寄り添い、支える

住民同士を結び、孤立をなくすための取り組みにも力を入れています。家に閉じこもりがちな高齢者や子育て中の人に、地域行事やサロンなどへの参加を呼び掛けます。より健全で自立した生活が送れるよう、一人一人の悩みに寄り添い、そつと支えます。

また、委員だけで取り組むのではなく、区や老人会、ボランティア団体、学校や学童クラブなどと協力し合い、地域全体で住民を支える仕組みづくりも行なっています。



なかやま なおこ  
**中山 尚子** 委員(南須屋)

転入してきた若い世代が閉じこもらないよう、子育てサロンを運営しています。お母さん同士が仲良くなり、つながりを広げ、ここに住んでよかったと思ってもらえたらうれしいですね。また、その中から活動を引き継ぎ、次につなげる人が出てきてくれたらと思います。



①子育てサロンの運営・協力



②高齢者サロンの運営・協力



③学童クラブへの参加



④シングルシルバーの集い

①②「みんなと顔を合わせられるのがうれしい」「会食が楽しみ」と好評のサロン活動。レクリエーションなどをきっかけに、参加者・ボランティア・スタッフの間に交流が生まれる(運営主体は民生・児童委員を含む有志や自治会などさまさま) ③毎週の学習指導や下校見守り、昔遊びなどを通じて子どもたちとの関わりを深めている ④75歳以上の一人暮らしの高齢者を招き、参加者同士の交流や外出のきっかけをつくるイベントも行なっている



合志小で月2回、「赤ペン先生」として2年生の算数や漢字の書き取りの丸付けに協力する委員



合志小学校  
まつもと せいき  
**松本 成樹** 校長

合志小学校では地域の皆さんに多方面でお世話になっていきます。中でも民生・児童委員の皆さんには約6年前、2代前の校長のころから学校の花壇の花植え、赤ペン先生としての丸付けや掛け算の九九の聞き取り、子どもたちの登下校時の見守り活動などに協力してもらっています。

子どもたちが地域の皆さんと顔見知りになることは、子どもたちを地域全体で見守ることにつながります。一人一人のわずかな変化に気付けるよう、こまめに情報交換をしながら学校と地域のつながりを強めていきたいですね。



委員交代の引き継ぎに区長や公民館長が立ち会うなど、委員と区が互いに情報共有し、住民の見守り・サポート体制を強化している地区もあります

委員の皆さんには高齢者や子どもの見守りなど、少ない人数で幅広く活動してもらっています。熊本地震では避難誘導にも尽力してもらいました。足腰の弱い高齢者や幼い子どもを抱えた人に避難所まで付き添うなど、力を貸してもらった人も少なくありません。また、委員と区は地域の問題を共有し、補い合う体制をとっています。毎年1回は区の役員会に出席してもらっていましたが、連携を強化するため、今後は区の行事と絡めながら、福祉的な問題点を互いに認識できる場を増やしたいと考えています。



上須屋区  
つじ 敏輝  
**辻 敏輝** 区長